

# 不登校対策の検討にあたっての方向性

## (目指す姿)

文部科学大臣  
永岡 桂子

### 1. 30万人の不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びを継続する。

- ✓ 一人一人のニーズに応じた多層的な学びの場（※）が確保されている  
（※）不登校特例校、教育支援センター、スペシャルサポートルーム等  
（※）こども家庭庁と連携し多様な居場所を確保
- ✓ 学校に来られなくてもオンライン等で授業や支援に繋がることができる
- ✓ 学校に戻りたいと思った時にクラスを変えたり、転校したりする等別集団への移動が認められている

### 2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する。

- ✓ 1人1台端末で小さな声が可視化され、心の不安や生活リズムの乱れに教師が確実に気付くことができる
- ✓ 小さなSOSに「チーム学校」で素早く支援することにより、早期に最適な支援に繋がられている
- ✓ 教育と福祉等が連携し、児童生徒や保護者が必要な時に支援が行われる  
（※）こども家庭庁と連携し自治体の教育部局と福祉部局等の連携を強化

### 3. 学校を「みんなが安心して学べる」場所にする。

- ✓ それぞれの良さや持ち味を生かした主体的な学びがあり、みんなが活躍できる機会や出番がある
- ✓ トラブルが起きても学校はしっかり対応をしてくれる安心感がある
- ✓ 公平で納得できる決まりやルールがみんなに守られている
- ✓ 障害や国籍言語等の違いを肯定的に捉え、色々な個性や意見を認め合う雰囲気がある

### 4. 「不登校」を科学的に把握する。

- ✓ 不登校の要因や不登校の児童生徒の状況をデータで客観的に把握する
- ✓ 不登校の児童生徒の個々の状況に応じた効果的な対応方法が確立されている